

下小岩小学校・下小岩第二小学校 統合・改築に関するQ & A

(令和2年12月25日時点)

【統合に関すること】

Q 1 . コロナ禍の中で統合を急ぐ必要があるのですか。

A 1 . 校舎の老朽化や学校適正配置について以前から検討を進めてきた中で、両校の統合と改築についての方針を決定しました。今後、新型コロナウイルスの感染状況による影響も生じる懸念はありますが、引き続き状況を注視しつつ、現時点で進められることについて順次取り組んでまいりたいと考えております。

Q 2 . 小岩地域全体の年少人口の推移が40年間で約20%減少するとありますが、下小岩地域も同様に減少するのですか。

A 2 . 下小岩地域の人口推計は一時的に増加傾向にありますが、将来的には小岩地域全体と同様に減少していく傾向と予測しています。

Q 3 . 令和7年度以降は標準規模の上限である18学級となるようですが、さらに学級数が増加した場合は再度2校に分かれるのですか。

A 3 . 令和8年度までは増加傾向にありますが、小岩地域では2030年(令和12年)以降、年少人口が減少していくと予測しております。今回の統合・改築事業は、将来の年少人口の減少を見据えた計画であるため、一時的な人数の増加によって再度2校に分けることは考えておりません。

Q 4 . 駅前にタワーマンションが3棟建つという話を聞きましたが、それは人口推計に加味していますか。

A 4 . 駅前の再開発によりタワーマンションが3棟建設され、約700世帯増加することは把握しており、その影響を加味した内容となっています。

Q 5 . 統合後の教員配置はどうなりますか。また、児童に対してどのようなケアを考えていますか。

A 5 . 教員配置については、統合校の実情や教員の事情等を鑑み、東京都が決定していくこととなります。また、児童のケアについては、現時点の制度では、統合することで教員の加配(増員)を受けられることができるため、統合時に可能な制度を活用しながら児童一人ひとりに目が行き届くようケアしていきたいと考えております。

- Q 6 . 統合後は、環境も大きく変化するため、児童を手厚くフォローしてほしい。
- A 6 . 児童へのフォローは非常に重要だと認識しております。そのため、統合前から少しずつ環境に慣れてもらえるよう児童交流を実施します。交流内容や時期については両校と相談しながら実施していきます。
- Q 7 . 統合後の校名や校章、校歌はどうなるのですか。
- A 7 . 校名や校章、校歌については、今後の合同会議で検討を行います。合同会議で検討されたことは、区ホームページなどで適宜お知らせいたします。
- Q 8 . 合同会議とはどのような会議ですか。
- A 8 . 統合に向けた諸課題、例えば校名や校歌、校章をどのようにするかについて検討を進めていく会議体です。メンバーは、両校の学校評議員、PTA会長、PTA役員、校長、副校長で構成されています。

【改築全般に関すること】

- Q 1 . なぜ下小岩第二小学校の敷地で改築を行うのですか。
- A 1 . 新校舎の建設地については、下小岩小と下小岩第二小を比較し、広い敷地の下小岩第二小で検討を進めてきました。下小岩小の敷地が 5353 m²に対し、下小岩二小は 7362 m²と約 2000 m²広く、校舎・校庭面積もより広く確保できます。また、下小岩小の敷地は都の条例により、周辺道路の幅が 6m未満の建築物は、高さ 15m(3階建て相当)までと制約を受けるため、建築上の条件面からも下小岩第二小の敷地が改築に適していると考えております。
- Q 2 . なぜ下小岩小学校の敷地で仮設校舎建設を行うのですか。
- A 2 . 下小岩小学校に仮設校舎を建設する一番の理由は、工事期間中に学校生活をする児童への負担軽減のためです。下小岩第二小学校敷地内での改築工事期間中、騒音や振動、工事車両の出入り等があるため、児童の生活環境や安全面への負担を考え、下小岩小学校に仮設校舎を建てる計画としました。
- Q 3 . 仮設校舎建設中は運動場などのスペースが狭くなりませんか。
- A 3 . 仮設校舎建設中は工事車両の出入りがあるため現在より狭くなりますが、できるだけ校庭が残るよう検討してまいります。また、他の運動スペースとして、校舎の屋上利用も検討しております。

- Q 4 . 仮設校舎の利用期間中、体育や運動会はどこで行うのですか。
- A 4 . 改築工事・校庭整備中の令和 5～7 年度の運動会については、近隣の小・中学校と調整し、校庭を借りて実施する予定です。基本的に徒歩圏内で行ける学校を検討しますが、もし距離の離れた学校となった場合、区で送迎バスの手配を検討いたします。
- Q 5 . 仮設校舎にはどちらの学校の児童が入る予定ですか。また、どの学年・クラスの児童が入りますか。
- A 5 . 令和 5 年度に学校統合となるため、仮設校舎にどちらの学校が入るという考え方はなく、仮設校舎の具体的な教室配置などの詳細は、今後検討を進めてまいります。

【通学区域全般に関すること】

- Q 1 . 通学路を設定する際に、信号機や標識などを付けることはありますか。
- A 1 . 通学路を設定する際は、教育委員会と学校が、警察や土木部などと協議を重ねながら決定していくこととなります。また、信号機の要望や標識などが必要な場合は、警察と調整を図ってまいります。
- Q 2 . 通学路の安全点検はいつ行う予定ですか。
- A 2 . 通学路の変わる令和 5 年 4 月に安全に通学していただけるよう、事前に点検を行います。
- Q 3 . 下小岩小学校への通学路を何の練習も無く歩かせるのは心配です。特に低学年の児童に対して、どのような取り組みを検討していますか。
- A 3 . 児童の安全を第一に考え、新しい通学路の案ができた際には学校を中心に検討し、練習の機会を設けるなど、児童が安全・安心して通学できるよう検討いたします。
- Q 4 . 改築後の通学路について、通学距離が長くなる児童が多くなりますが、通学区域の見直しは行わないのですか。
- A 4 . 現時点では見直す予定はありません。また、今後の児童・学級数は駅前再開発等によりマンション建設が決定しているものを加味しておりますが、さらに大型マンションの建設などの情報があつた場合には再度検討いたします。

Q 5 . 新校舎完成後、現在の下小岩小学校の児童が下小岩第二小学校の敷地に通学する際、一番遠い児童ではどれくらいの距離を想定していますか。

A 5 . 下小岩第二小学校とおおむね対角線の位置となる小岩駅東側付近から直線距離でおよそ 1km、実際の道のりではおよそ 1.2km となります。江戸川区では、学校選択制の際に 1 つの基準として、ご自宅から学校まで直線距離で 1.2km 圏内の学校を選択することができるとしており、それを準用した形で考えております。また、1.2km という距離は、小学 1 年生では 20 ~ 25 分程度かかることを想定しております。

Q 6 . 小岩第五中学校の通学区域を見直す計画はありますか。

A 6 . 現在、下小岩小学校と下小岩第二小学校は、小岩第五中学校の通学区域となっております。教育委員会では、可能な限り同じ小学校の児童が同じ中学校に進学できるよう通学区域を設定したいと考えているため、今のところ見直す計画はありません。

【その他事項に関すること】

Q 1 . 今後、保護者説明会はどの程度開催される予定ですか。

A 1 . 統合・改築事業それぞれの検討事項の決定などをお伝えしたいと考えております。今後は、進捗状況などに応じて適宜開催してまいります。

Q 2 . 下小岩小学校の跡地はどのように利用されるのですか。

A 2 . 現時点では決まっておりません。今後、担当部署である新庁舎・大型施設建設推進室を中心に検討していくこととなります。

Q 3 . なぜスーパー堤防を整備するのですか。

A 3 . 下小岩第二小学校のあるこの付近は、新中川に面していて、東京都のスーパー堤防整備事業の対象区間となっております。スーパー堤防は、「高潮」や「大地震」による水害から東部低地帯を守るために東京都が整備を進めており、堤防整備を行うことにより、河川流域の安全性をより高めます。整備の詳細につきましては東京都と区で今後検討してまいります。

Q 4 . 避難所の機能はどうなるのですか。

A 4 . 統合改築後、2 校が 1 校になりますが、現存の建物がある間は、下小岩小も避難所として利用していく予定です。また、避難先は住所によって指定されているものではなく、災害時はどの避難所(小中学校)に避難することも可能です。なお、改築に伴い、将来的には避難所は 1 カ所減りますが、統合校は、マンホールトイレ設置等の防災設備・物資の充実を図ることで防災機能が強化されるため、災害時には避難所として大きな機能を発揮します。

- Q 5 . 区発行の水害ハザードマップ上では、下小岩地域は 1 階が浸水すると記載されていますが、新しく建設される校舎は避難者のためにどのような配慮をするのですか。
- A 5 . 下小岩地域は 1 階まで浸水する恐れがありますが、校舎の建築については、屋内運動場は 2 階以上の高さに配置することを原則としており、避難所として運営しやすいよう防災備蓄倉庫も近接して配置する予定です。また多くの方が一斉に避難することも想定した動線を検討してまいります。